

編集後記

『言語文化』第四二号をお届けする。今年度、言語文化研究所は「明治学院大学公開講座」の企画を担当することとなり、十月にシンポジウム「文学は国境を超えて」を開催した。詳細は貞廣真紀先生（英文学科教授）の報告を参照されたい。その登壇者による原稿の寄稿が、今号の特集である。シンポジウムを企画、実施してくださった貞廣真紀先生、ならびに登壇者、今号にご寄稿いただいた皆様には心から御礼申し上げます。

ここからは、言語文化研究所の二〇二四年度の活動について振り返りたい。まず、四月二十五日には、ボーヴィウ・マリノエル先生（フランス文学科准教授）による企画で、『剣』／KEZと題されたダンスパフォーマンスをフランス文学科と共催した。パフォーマンスは

フランスを拠点とするアーティスト東陽子氏によるもので、東氏は明治学院大学フランス文学科卒業後、暗黒舞踏を習い、フランスに移住、その後ミュージシャン、作曲家、ダンスパフォーマンス、演出家、女優として活躍されている。本公演の作品は、パリの市立組織 Forum des images 主催の「三島由紀夫をめぐる映画特集」の一環として制作され、三島由紀夫の「剣」が題材となっている。剣道部所属の本学法学部学生との共演で再演された。パフォーマンスの終わりには、フランスにおける三島文学や日本の芸術、武道の受容、フランスへの移住や芸術活動などに関し、東氏と本学フランス文学科教員との間で質疑応答が行われ、ダンスパフォーマンスに留まらない充実した内容のイベントとなった。なお、三月に予定されていた穴澤万里子先生（芸術学科教授）によるシンポジウム「メーテルリンク・ルネサンス」は、海外からのゲスト二名の来日が困難な状況となり、残念ながら開催中止となった。本年度は、昨今の円

安と物価高の影響で海外から講演者を招くことが難しいこともあり、イベントは一件のみとなった。しかし、来年度は、すでに少なくとも一件のイベントが企画されており、より活発な活動が期待される。今後のイベントについては、言語文化研究所のホームページで詳細をご確認いただきたい。

次に、読書会に関しては、「うちなぐち講座」「戯曲を読む会」「ホメーロス研究会」がオンラインで開催され、「古典ギリシア語初歩文法講座」が対面形式で開催された。開講四年目を迎えた「戯曲を読む会」は、コロナ禍にオンラインでスタートしたためか、北海道や九州、海外からの参加者もあり、大変盛況であったが、残念ながら来年度は一旦休会となる。四年間読書会を開催してくださった穴澤万里子先生には感謝の意を表したい。なお、その他の先述の読書会は来年度も開催予定であるが、詳細については言語文化研究所のホームページを参照されたい。

最後に、所長一年目で至らないところも多々あったと思うが、三回の委員会議を開催し、『言語文化』第四二号を無事刊行できたのは、委員の先生方と主事の平岩健先生、研究所事務担当の伊東絢さんの協力と尽力のお陰である。心から感謝申し上げたい。

(中西公子)

*

本号の特集は公開講座「文学は国境を超えて」をもとにしたものである。講座は、国家越境的な作品の形成や流通・受容に目を向け、外国文学が日本との関わりの中でどのように生み出され、翻訳・翻案を通じてどのように土着化したのか、あるいは逆に、日本文学がどのように海

外で受容されてきたのか、文学の豊かな越境的営みを検証するものであった。具体的には、第一回が「日本におけるアメリカ文学史の形成——ハーマン・メルヴィルの受容を中心に」(貞廣真紀・本学教授)、第二回が「イザベラ・バードの見た横浜・東京」(辻河元及・本学准教授)、第三回が「平家物語——時空と言語・文化の境界を超えて」(マイケル・ワトソン・本学名誉教授)と「古典文学の外国語訳への期待——『源氏物語』英訳を中心に」(緑川真知子・早稲田大学古典籍研究所招聘研究員)、第四回が「宝塚版・東宝ミュージカル『ロミオとジュリエット』の日本風アレンジと娯楽的效果」(本多まりえ・本学准教授)であった。非常に熱心に参加してくださった受講者の皆

さまに改めて感謝申し上げたい。

本特集には、残念ながら、調査継続中の貞廣の論考は収録が叶わなかったが、講座の内容を発展させた論考や、講座内容とは別角度から作品を検証した論考が掲載されている。お楽しみいただければ幸いである。

なお、表紙と背表紙の画像は、マイケル・ワトソン氏にご提供いただいた。フランソワ・トゥレティーニ翻訳による『平家物語——十二世紀の日本の歴史物語』(Turretini, Francois, *Heike monogatari: recits de l'histoire du Japon au XII^e siècle*, 1871)の表紙および挿絵(忠盛が天皇の寺院の僧を捕らえる)である。

(貞廣真紀)